

YMCA健康福祉専門学校

健康福祉ニュース

What's New!

・どんな資格？ 社会福祉士特集

「スクールソーシャルワーカーって？」

今日7日の朝刊に「スクール・ソーシャルワーカーの制度化」の記事がありました。

「虐待や育児放棄、経済的な困窮など深刻な問題を抱える家庭の保護者や子どもに対し、専門的な見地で対応をするため、文部科学省は、2008年度から公立小中学校で活動する「スクール・ソーシャルワーカー」を全都道府県計141地域に配置することを決めた。」(1月7日東京新聞)



日本では1980年代から「学校・家庭教育の崩壊」が叫ばれるようになりました。家庭教育の崩壊から学校にすべての責任が負われ、教員もストレスによる休職・不登校が増え始めました。子どもたちが日々の生活の中で出会う様々な困難を、子どもの側に立って解決するためのサポートシステムの必要性はずっと訴えられてきていました。ようやく文部科学省もスクールカウンセリングに加えてスクールソーシャルワーカーの制度化をせざるを得ない状況を認識したのでしょうか。子どもたちの間に起きている不登校やいじめ、暴力行為などの問題行動の多くは家庭環境が影響しているケースも多く、学校の先生だけでは十分に対応できない状況も増えています。福祉現場と同じように専門家の協力を得られる仕組みを整えることで、それぞれの状況に応じた対応を可能にすると同時に、教員の負担を軽減することにつながることでしょう。

スクール・ソーシャルワーカーの主な役割は学校と関係機関との仲介です。深刻な問題を抱えた保護者や子どもの実態を把握した上で、それぞれの状況に応じて福祉施設や警察、地域のボランティア団体などにも協力を要請します。生活保護や就学援助の申請手続きの助言をすることなども必要でしょう。社会福祉士や臨床心理士など専門的な知識を持つ専門職の他、行政制度に詳しい人や保護者や子どもの相談活動を経験した人たちからも担い手を求めると聞いています。

昨日、横須賀の児童福祉施設で生活指導員として頑張っている卒業生が新年の挨拶としてYMCAを訪ねて来てくれました。そこでスクール・ソーシャルワーカーの話をしてみると、「常に子どもたちに関心を向け、しっかりと向き合うことが大切。早い段階で子どもたちに適切な支えがあれば、立ち直るきっかけはいくつもある。」「不登校やいじめ、自殺など子どもを取り巻く社会問題の原因は決して子どもだけの問題ではない。」「子どもの悩みや考えを聞いてくれる大人がそばにいない現状を改善しないと・・・。」「相談したくても親は仕事で忙しく、伝えたいことも遠慮している子どもがいることを知ってほしい。」「また、彼らは日常接している様々な場面で、思い悩む子どもから子どもの気持ちを引き出そうと懸命になるそうです。それは親も教師も忙しく、子どもの話を聞く余裕がないのが現実。子どもは、自分の思いを言葉にできるだけでも心が癒されるはず・・・と。そして「今の社会は、子どもも大人も疲れている。自分も事で手一杯。互いに認知し合う体験は、お互いの配慮につながり、支え合う関係をつくることができる。」と、力を込めて語ってくれました。

スクール・ソーシャルワーカーに求められているのは、彼らのような福祉的発想と援助技術をもった社会福祉士や精神保健福祉士なのかも知れないと思います。私は、彼らを誇りに思います。私たちYMCAの目指す福祉社会の担い手としてこれからも一緒に頑張っていきたいと思えます。

YMCA健康福祉専門学校
校長 小林 一郎





パソコンのパワーポイントを使うことで、理解しやすい発表になります

この一日で卒業が決まる！？卒業論文発表会

12月22日には卒論発表会が行われました。YMCA健康福祉専門学校では、卒業論文提出を必修としています。ゼミ担当の先生と、自分の興味あるテーマ(児童心理・メタボリックシンドローム・スポーツ時事問題など)や希望する進路についてのテーマ(統合保育・障がい児支援・音楽療法など)、また実習で経験した利用者との関わりや支援などからテーマを選び、マンツーマン指導をうけながら、半年以上かけて論文を作り上げます。提出期限である11月末まで、何度も何度も先生の

「ダメだし」に立ち向かったことは、良い思い出になるでしょう。最近では大学でも卒業論文の提出を求めない学校・学部が増えているといえます。専門学校で学んだことについて自分なりにさらに良く考え、論文という形にすることは大きな財産です。また専門職として自分自身の考えを持ち、他者に発表することは、大きな自信につながります。論文作成と同じくらい大切な、論文発表の機会を経験することができました。



座る位置にも気をつけて、きれいな3部合唱になりました

歌う、クリスマス礼拝

横浜カレッジグループでは5校合同でクリスマス礼拝を行います。今年は12月1日鎌倉雪ノ下カトリック教会で行いました。教会の大聖堂は、はりつめたような緊張感と、美しさがあります。そんな日常と異なる空間で、今年はキリストの生誕について各校の代表が聖書を読み、全員で讃美歌を讃美する礼拝を行いました。第2部となる祝会でYMCA健康福祉専門学校による合唱を披露しました。これは、11月に行われた音楽祭での素晴らしいハーモニーをぜひ多くの皆さんと共有し

たい！と、決まった企画です。当日、リハーサルでは恥ずかしさもあってか大きな声がでません。校長先生から「今日の祝会はみんなの歌がメインなんだぞ！」といわれながらリハーサル終了。どうなることかと心配しましたが、本番では約200人の、音楽祭に負けないほど聞き応えのある合唱となりました！

なお、この日は指揮を福祉スポーツ科2年の古谷一将さんが、演奏を健康福祉科3年の加藤恵里華さんが担当してくれました。

学生たちの活動報告会が行われました

この学校ニュースでもたびたびお知らせしているように、YMCA健康福祉専門学校ではボランティア活動やスタディツアーへの参加などを大切に、学生の皆さんに勤めています。去る11月27日に、合同HRを行い「学生活動報告会」を実施しました。さまざまな活動に参加した学生本人に、自分自身の経験を話してもらい、それぞれが得た学びを共有することを目的としています。今回は、新潟中越沖地震災害ボランティア(介護福祉科2年、上野恒平さん、穴見由香里さん)、広島青少年国際平和セミナー参加(介護福祉科1年佐藤利恵子さん、伊

藤菜智さん)、AYET(福祉スポーツ科専攻科小林あゆみさん)、デンマーク福祉研修(健康福祉科3年三木隆史さん、天野萌美さん)、以上4組の発表を聞くことができました。一人一人が自分の言葉でその経験を話してくれました。YMCAには、自分から手を伸ばせばたくさんのチャンスがあります。資格取得だけでなく、たくさんの経験を持って活躍してほしいと思います。



新潟中越沖地震のあと、現地の高齢者施設でのボランティア経験を話す穴見さん

自分から手を伸ばしたら
つかめるチャンスは
たくさんになる！

資格あれこれ

社会福祉士特集

心身に障がいがある人や、日常生活を営むうえで支障のある高齢者など、福祉サービスを望む人たちの相談に応じ、相談者の解決能力を高めることや各種制度・施設の利用方法などを助言、福祉サービスの調整をするなど、主にソーシャルワークを行うための資格が「社会福祉士」です。職域は広く、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、医療福祉など多方面にわたります。国家試験に合格し、社会福祉士資格を取得する必要があります。

YMCA健康福祉専門学校健康福祉科では、3年間の学びを通じて社会福祉士の受験資格を取得します。1年間の相談援助実務経験の後、国家試験の受験が可能です。また、広い職域でさらに活躍できるよう、保育士・幼稚園教諭免許が卒業と同時に取得できます。



大学でとる？専門学校でとる？ 違いはココ！

- 1 **クラス担任制と少人数指導で、しっかり身につける！**
ひとり一人の顔がわかる関係のなか、それぞれの長所短所をふまえながら、厳しくも(!)丁寧な指導を受けられる。
- 2 **実務経験で自分に自信をつける！**
YMCA専門学校では卒業後1年の実務経験が必要。現場で得た知識・技術はすべて自分の自信につながる間違いないし。
- 3 **講師はみな、実務経験者！**
授業を担当する講師はみな、現場経験が豊富。より現場に即した「使える知識・技術」が取得できる。
- 4 **現場とのネットワークで、最新情報をゲット！**
多くの卒業生が福祉現場で活躍するのが専門学校の特長。福祉施設との連携も深く、業界のさまざまな情報を入手できる。



ベスト進学ネットより <http://www.best-shingaku.net/>
現在、「社会福祉士特集」として、本校健康福祉科学科長の畑武子先生が掲載されています

社会福祉士のもとへは こんな人が相談に来ます

寝たきりや認知症など老後生活が不安
将来、判断能力が低下した時に備えて、財産管理をちゃんとしたい

地域の中でできるだけ自立して暮らしたい

病気・ケガの不安、医療費や生活費のこと、退院後の生活、介護サービスの受け方など心配
がん末期などターミナル期の患者さんに満足のいく看取りがしたい

死別やさまざまな事情で、親と暮らせなくて困っている

子育てや仕事が一段落し、ボランティア活動や次の生きがいを探したい

横浜YMCA「レッドケア・ストーリーコンテスト」に本校学生の作品が採用されました！



表彰式でコメントする斉藤さん

横浜YMCAでは「Caring(思いやり)」、「Honesty(誠実さ)」、「Responsibility(責任感)」、

「Respect(尊敬心)」の4つを大切な価値観としてとらえています。

毎年、この価値を大切に思う気持ちをストーリーとして書き、それぞれの価値について見直す機会として「ストーリーコンテスト」を実施しています。そして子どもたちにも大切な価値を感じてもらうために、出来上がったストーリーを本として配布しています。今回、健康福祉科3年の斉藤高志さんがこのコンテストで最優秀賞を獲得し、ストーリーブック「レッドケアとやさしい声」が完成しました。ストーリーブックは県内のYMCAで配布中

斉藤さんの授賞式でのコメントより：

「このストーリーに書いた皆から嫌われていた狼は自分です。『みんなにうまく声をかけられなくて、どうしたらみんなと一緒に楽しく遊べるのかわからないからイライラしているけど、本当はみんなと仲良くなりたいたい』という狼のせりふは自分の気持ちでした。でも今はこんなに皆さんが認めてくださり、祝福してくださって、とても嬉しいです！」

おめでとうございます！！



これからのカレッジ・イン(学校見学・体験入学)と入学試験

YMCA健康福祉専門学校では、毎年3月まで入試を行います。

将来のことを決めるのは自分自身です。自分自身で見て、考えて、行動してほしい。

福祉、保育、スポーツに興味のある人、入試に不安のある人は是非カレッジ・インにお越しください。そして将来のこと、資格のこと、お金のこと、何でも相談してください。YMCAと一緒に考えます。

2008年 1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	カレッジ・イン
13	14	15	16	17	18	入試
入試	21	22	23	24	25	カレッジ・イン
27	28	29	30	31		

2008年 2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	カレッジ・イン
入試	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
入試	25	26	27	28	29	カレッジ・イン
						入試

カレッジ・インは各回とも9:30～15:30です

日程・時間について、都合のつかない方はご相談ください



YMCA健康福祉専門学校

福祉スポーツ科
健康福祉科
介護福祉科

〒243-0018

厚木市中町4-16-19

電話 046-223-1441

FAX 046-223-2101

Email: ymkenko@yokohama-ymca.or.jp

HP: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/health>



小田急線本厚木駅から徒歩5分
本厚木駅周辺にはミロードをはじめたくさんのお店もあり便利です。有名ラーメン店もありますよ！

体験入学をおこなっています！
<http://www.yokohamaymca.ac.jp/health/>

Realize your dream!

～地域福祉をささえるのはあなたです！～

YMCAではさまざまな活動を通して次のことを学びます。

- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心と体を育むこと」

そしてこれらを実現するために、次のことを大切にします。

- 「Caring(思いやり)」「Honesty(誠実さ)」
- 「Responsibility(責任感)」「Respect(尊敬心)」

YMCA健康福祉専門学校では、カリキュラムや学校行事を通じて4つの大切な価値を意識する機会を取り入れています。将来、福祉・保育・スポーツの現場で活躍する学生のみなさんに、他者への思いやりの心を持ち、相手を敬い、自分の行動に責任を持ち、誠実に取り組んでいく専門職になってほしいと願っています。